

## 会議の概要

会議の名称	令和5年度 第2回三田市男女共同参画推進委員会
会議の日時	令和6年2月2日(金) 18時30分～
会議の場所	三田市役所本庁舎 302 会議室 A
出席した委員の氏名	土肥伊都子会長、川村貴子副会長、永井和浩委員 中西孝之委員、柿本朗佑委員、福井清緝委員、 松浦義仁委員 (オンライン)茂木美知子委員、益田紗希子委員
出席した職員の職及び氏名	岸本共生社会部長、鶴福祉共生室長、 橋本人権共生推進課長、佐藤人権共生推進課主幹
その他出席者	須田聡子(人権・男女共同参画プラザ)
傍聴者の人数	なし
議事	1 開会 2 協議事項 第6次三田市男女共同参画計画について 3 その他 4 閉会
資料	・次第 ・資料1(令和5年度の取り組み)
会議の概要 (結論)	第6次三田市男女共同参画計画の推進に向け、令和5年度の取り組みを中心に男女共同参画の推進方策についての検討を行った。
公開非公開の区分	公開

## <議事概要>

### 1 開会

#### (1) 会議成立の確認

### 2 協議事項

#### 第6次三田市男女共同参画計画について

##### ・令和5年度の取り組み

##### 【事務局】

第1回目で令和5年度の取り組みとして計画を紹介したものについて、事業の実施報告を行い、今後の第6次三田市男女共同参画計画の推進に向けた助言をいただく。

##### 【会長】

今の点について、何か意見や質問、感想などはあるか。

##### 【委員】

多くの講座やイベントを開催するなかで、1つの講座に終わらせず次の講座へとつなげていく工夫があること、またそれらを報告としてまとめることが広報につながり、発信していることが評価できる。

##### 【委員】

講座やイベントを通して活動者同士がつながり、活動の間口が広がっていることを感じる。今後も、女性が地域と接続し、活躍するための糸口となってほしい。

##### 【委員】

特に若い世代について、ターゲットとして集客するときに、発信の仕方などの工夫次第でちゃんと来てくれるということに感心した。また、参加者の感想から、講座の満足度とその関心事を次につなげる仕掛けがあることがよかった。

##### 【委員】

LINEなどのSNSも活用して、ターゲット層を意識した情報発信が重要になってくる。ホームページに掲載しているだけではもう見てもらえない。

##### 【委員】

企画を生み出すのには大きな労力が必要となる。いろんな部署と連携して多くの企画を実施していることが評価できる。例えば、職員研修でグループチャットを作っているとのことだが、その中の他愛もない発言が企画のヒントになることもある。それを意識してより良い施策につなげてほしい。

##### 【委員】

高校生の感想にもあるように、自身も当委員になる前は、法律もでき男女同権になっているという認識だった。委員会を通じて学んだことで様々な課題があること、またそれに対応するため様々な取り組みがあることを知った。これをやればよいという明確な解決策がない。今後必要になるのは、1人1人の「相談する力」ではないか。困ったことがあれば、様々な支援機関があるなかで自ら選択して相談し、個々の困りごとに解決策を見つけていく、そのような「相談力」を若い世代に知ってもらうことも必要ではないか。

##### 【委員】

男性の育休取得向上に向けては、経験者の体験談が効果的ということで職員研修を

通して実践したことを評価する。帯広畜産大学 浦島教授による「ヒトミルクオリゴ糖の科学」という論文には、母乳が子どもの脳の活性化に大きく関与しているということが書かれている。男性の育休取得に向けた対策の1つとしての提案だが、ヒトミルクオリゴ糖が生成されやすい献立による新米父親向け料理教室を開催することで、父親自身が間接的に胎児に働きかけられるという意識付け、また男性が家事・育児に参加する意識改革につながると考える。

【副会長】

中高生向け LGBT 講座について、参加者の立場になって参加方法などを検討しているところが評価できる。それが、ターゲット層の参加につながっている。

また、都市政策課や産業政策課との連携はもちろん、職員研修でも人事課としっかり連携できていることが、参加率の高さや満足度の高さに表れている。第6次の計画の初年度にもかかわらず、多くの事業が展開できたのも、計画の理念が庁内に伝わっているからではないか。引き続き市全体として尽力してほしい。

【会長】

この委員会で審議した計画が、すでに1年で成果を上げている。連携してきた部署や研修に参加した職員など、庁内での火を絶やささないよう推進してほしい。令和6年度には、関係課の、計画に関する各指標の値が上がったとの報告が楽しみである。

### 3 その他

【会長】

その他として事務局から何かあるか。

【事務局】

当委員会の2年間の任期を終え、感想や計画推進への思いなどを聞きたい。

【委員】

報告の中には、良かったことだけでなく課題も拾い上げて認識しているところがよい。課題の認識により、次へのステップアップにつながる。

【委員】

委員会に参加したことで、市の施策や事業が様々な計画に則って進行していることがよく理解できた。今後も積極的に市の取り組みに関わっていきたい。

【委員】

委員として人権共生推進課の事業に関わるようになり、人権が自分ごとになった。まだまだ勉強不足と実感するが、この委員会での学びを自分なりに伝えていきたい。

【委員】

男女共同参画は企業の取り組みも重要である。商工会などとも連携して研修やセミナーの開催などを通して、計画を推進してほしい。

【委員】

男性育休取得の推進に関心がある。自身が職場で初めて男性育休を1か月取得した経験がある。1人が取得すると後に続いていく人が増え、それに合わせて環境も整っていく。現在、自社では男性育休取得率が100%となった。一歩踏み出す人も必要だが、それを支える環境整備も大切。計画の推進にあたり、市内事業者にも男性育休が取得しやすい環境が広がることを期待する。

#### 【委員】

1つ提案だが、先ほど相談する力が必要という話をしたが、市公式LINEに「相談する」というコマンドを作ることができないか。どこに相談したらよいか分かるだけで相談へのハードルが下がると考える。ChatGPTを搭載できたら、あいまいな相談を入力しても的確な相談窓口に誘導できると考える。

また、暴力への対応について、日本では暴力への対応は告訴しかない。暴行罪を立証するため、どのようなことが暴力に当たるのか認識するためのツールをホームページなどで公開できないか。何が暴力に当たるのかを知っているだけで抑止力にもなる。予防が大切。

#### 【委員】

今年のノーベル経済学賞の受賞者に、男女格差を研究する女性研究者があった。しかし、日本のマスコミは全く報道しなかった。国民全体で男女格差について話をする良い機会であったはずである。人々の意識を変えるのは難しいように思われるが、計画にあるようにコツコツ地道にやっていくしかない。

#### 【副会長】

委員会に参加することで、新しい知見や気付かなかった発想に出会えた。県内の企業への女性活躍推進にも取り組んでいるが、なかなか進まない現状がある。具体的に何をすればよいか分からなかったり、必要以上の遠慮や配慮が影響していることもある。何がハラスメントにあたるかなど、正しい知識を持つことが必要である。中高生へのキャリア教育も大切だと考える。その中高生が大人になる頃には、男女共同参画があたりまえの社会になっていくだろう。そのためにも、計画を推進していくことが大切である。

#### 【会長】

女性活躍や男女共同参画は、女性だけが取り組めばいいものではない。社会が変わらないと成り立たない。男性と共に考え、共に行動することで女性が活躍できる。男性も一緒に社会を変えるという覚悟を持ってほしい。三田市は、第6次の推進に向けて良いスタートが切れた。この先5年間、がんばってほしい。

## 4 閉会